

## ヘイゼルグリーンンのジョン

- 1 太陽が明るく輝く  
さわやかな五月のある朝のこと  
悲嘆にくれた  
悲嘆にくれた  
美しい娘の声が聞こえました  
何をそんなに悲しんでいるのかと思えば  
ヘイゼルグリーンンのジョン卿  
この紳士かたのためでした
- 2 「何が悲しいのですか かわいい娘さん  
そんなに悲嘆にくれるとは  
たとえ身分は違っても  
あなたを花嫁にして  
そばにおける者は  
幸せだろうな」と男は言いました  
娘は素敵なヘイゼルグリーンンを想って  
涙がいつこうに止まりません
- 3 「ヘイゼルグリーンとはどんな人  
私に話しておくれ」  
「あの方は まことのお紳士かた  
南の国に住んでいます  
広い肩幅 長い腕  
見るも立派な体つき  
髪はまるで金の糸  
素敵なヘイゼルグリーンさま」
- 4 「ヘイゼルグリーンは もう結婚しているよ  
そんな話はもう甲斐ないこと」  
「もしそうだとしたら  
今日は私の厄日だわ  
溜息もすすり泣きも もうやめて  
涙でいっぱい目を閉じるわ  
話すのも泣くのも もうやめて  
ヘイゼルグリーンを想って死ぬわ」
- 5 「ヘイゼルグリーンのことなど忘れて  
私と一緒に  
そなたを上の子の嫁に迎えて  
立派な奥様になってもらおう」

「立派な奥様になるなんて  
私は身分の卑しい娘  
このまま家にとどまって  
ヘイゼルグリーンを想って死ぬわ」

6 男はかわいい娘を馬に乗せ  
すばやく拍車をかけました  
二人はビガアの町に向かい  
やがて ビガア市場に着きました  
あちこち宿を探していたら  
馴染みの宿がありました  
娘は素敵なヘイゼルグリーンを想って  
涙がいつこうに止まりません

7 男はかわいい娘の手を取って  
市場まで連れて行きました  
娘にペチコートと  
裾の長いガウンを買ってやりました  
絹の帽子は頭にぴったりで  
銀色に光っておりました  
娘は素敵なヘイゼルグリーンを想って  
涙がいつこうに止まりません

8 男はかわいい娘を馬に乗せ  
屋敷へと向かいました  
そこは歓喜と陽気  
美しい女たちでいっぱいでした  
女たちの顔立ちは  
見るからに上品でした  
娘は素敵なヘイゼルグリーンを想って  
涙がいつこうに止まりません

9 息子のヘイゼルグリーンは大急ぎで  
父親を迎えに走りました  
かわいい娘を腕に抱き  
あふれる涙をキスしてふいてやりました  
「ああ いとしい恋人よ  
ぼくの胸は張り裂けそうだ  
おまえをヘイゼルグリーンに迎えるために  
遺産の土地は放棄してもいい」

10 「もうよい 息子よ」と父親は言いました  
「もう何も言うでない」

この娘は今日 はるばる遠くから  
おまえを訪ねてやって来た

今日は おまえたちの結婚式

さあ この娘はおまえの花嫁

遺産はそっくり おまえに譲ろう

このままヘイゼルグリーンで暮らすがいい」

(近藤和子訳)